

ペシャワール会支援

戦乱と干ばつのアフガン 65 万農民に命の水を！

非戦をつらぬく

中村哲さん

1984年、パキスタン旧北西辺境州（現カイバル・パクトウンクワ州）ペシャワールでハンセン病治療を始める。
2000年から干ばつが厳しくなったアフガニスタンで井戸事業、03年から用水路建設を主導。
19年12月4日、ジャララバードで凶弾に斃れる。享年73歳。

中村哲さんパネル展 ・ふなばし

とき

2023年11月27日（月）～12月3日（日）

9:30～19:00

但し11月27日13:00開始

12月3日15:00終了

ところ

船橋市民ギャラリー 第2ホール

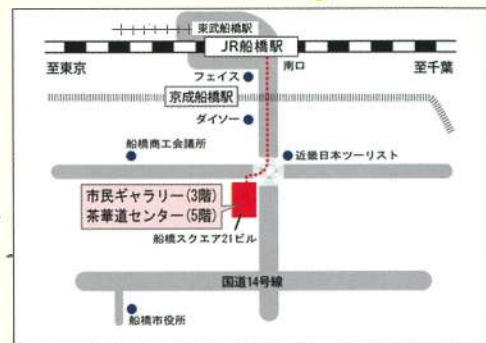
千葉県船橋市本町2丁目1番1号
船橋スクエア21ビル3階

参加費無料

書籍等の販売はしません。

ペシャワール会へのカンパ箱を設置します。ご協力をお願いします。

展示物など ペシャワール会提供の写真パネル（A3サイズにラミネート）約50枚
「火野葦平（中村哲の伯父）図録Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」各1冊 閲覧自由
ペシャワール会製作DVD鑑賞。主催者所蔵DVD上映。



主催 中村哲の志を継ぐ有志 ー命の水～共に在りー

協賛 生活協同組合 パルシステム千葉

責任者 相川 晴彦 携帯：090-4919-9140 l:haru-aikawa@circus.ocn.ne.jp

郵貯振替 加入者名：相川晴彦 口座記号番号：00250-2-112339

ペシャワール会発足 40 年

中村哲さんの志は、現地アフガンの人々の心の中に生き続ける。

1983 年 9 月、中村哲医師のパキスタン（後にはアフガニスタンに拡大、当時、アフガニスタンにはソ連軍があり、パキスタンには多数のアフガン難民がいた。）での医療活動を支える目的でペシャワール会が発足、1984 年より現地事業が始まった。他人が行かない所へ医療。ガンベリ砂漠への用水路完成、心の拠り所モスク・マドラサ開設など中村哲が現地人の心の中に生き続けている。

没後約 1 年半後、2021 年 8 月 15 日、突如の米軍撤退、ガニ政権逃走、タリバン政権無血樹立。一定の混乱が収まってみると、

欧米が「女性の人権」で経済制裁を課した。日本から PMS 運営資金の送金は一時できなくなり、アフガンの銀行に預金していたドルもいまだに自由に引き出せない。

そんな中、PMS は日本側の賛同を得て、最も困っている人たちだけに食糧配給をした。

2022 年 5 月にはタリバン政権の指示により、アフガニスタン復興に寄与する NGO は銀行からの引出が一部可能になった。同年 10 月には、要望が強かったバラコットでの工事に入った。



最初の配給地アチン郡の郡立診療所。配給の前日に、PMSの医師自ら対象となる家族の診察を行い、乳児の健康状態をチェック。診察を終えると配給カードを手渡し、翌日食糧を手渡す時間と場所を伝えた。2022年1月23日

2021 年 12 月 PMS が困窮者への食糧配給の実施を日本側に申し出て快諾を得た。対象はナンガラハル州 22 郡中の 6 郡で栄養失調児、妊婦、授乳中の女性を抱える 1800 家族（約 1 万 8 千人）。1 か月を掛けて関係各所調整して配給体制を整えた。

配給先では、一日目は郡立診療所で栄養失調児などの診察をして 300 家族を選び、配給場所を伝え、配給カードを配った。二日目は、配給カードを持たない村人も大勢押しかけた。腹を空かせて弱っている子に何とか食べさせたい母親たちの、腹の底から絞り出すような「私の子どもに食べ物！」との声は、なかなか世の中に届きません。

©PMS(平和医療団・日本) (2022 年 1 月 23 日)



(2)バラコット堰・用水路

「現在、1 日の作業員は 200 人に上り、全長 4.3km の用水路造成が一気に進んでいる。現場は慌ただしく、活気に溢れている。」新規事業として小河川からの取水と湧水からの導水を合流させる、小規模灌漑施設として 2022 年 10 月着工。工期 1 年であるから、2023 年 9 月末には完成して、用水路を作った作業員は、10 月には農民に戻って農地に水を引き耕作に励んでいる筈だ。ここは 2015 年頃から米軍撤退まで、激しい戦闘で家屋も農地も破壊された。完成すれば、国内外からの多くの帰還難民の住民の生活を支援する。

©PMS(平和医療団・日本) (2023 年 5 月 6 日)



「火野葦平図録」

- I、文と写真で全体像を。
金五郎と子供たちに秀子も。
- II、九州文学の面々に中村勉。
- III、葦平が中国戦線で撮った写真。

中村哲の一途な家系（敬称略）

伯父火野葦平の小説「花と龍」の主人公玉井金五郎とマン夫妻の次女秀子が中村哲の母だ。秀子は労働運動の指導者中村勉と駆け落ちで一緒に。若松港沖仲士の主金五郎は反対したが後に祝言をあげさせた。1931 年、若松港沖仲士労組の争議に火野・勉は深く関わって後に検挙・起訴され、33 年、勉は実刑判決を受けた。一方で勉は儒教的な道徳を重んじ、哲の幼少から論語を読ませた。その倫理は、後にキリスト教徒になった中村哲の心にあるし、長らくイスラム教に接して、「人が生きる上での倫理はそう変わらない。」金五郎・マン、勉・秀子に流れる一途さは「三度のご飯が食べられて、家族一緒に故郷で暮らしたい。」の細やかなアフガン人の望のために重機を運転し用水路を造る中村哲の一途さに繋がっている。



花田光夫
透
大石高子
(三福湯夫人)
玉井政雄
火野葦平
哲
玉井政雄
吉祥寺住職
中村秀子
中村勉
玉井マン

後援：朝日新聞社千葉総局 東京新聞千葉支局 毎日新聞社千葉支局

< 賛同団体 > 京成バス労働組合 / 憲法九条を世界へ、未来へ、千葉県実行委員会 / 憲法を活かす会千葉県協議会 / 国鉄千葉動力車労働組合 / 国鉄労働組合千葉地方本部 / 市民ネットワーク・ふなばし / 鈴三テク / 有志

< 賛同人 > 相川智加子 / 相川晴彦 / 青木政子 / 麻生修子 / 阿部治正 / 阿部正勝 / 池田早智子 / 池田登美子 / 石塚和江 / 石原幸子 / 石本恵理 / 井上庄二 / 井上登喜弥 / 井上好子 / 伊藤嘉昭 / 岩城妃佐子 / 海老根實 / 大川知子 / 大崎哲人 / 大屋哲史 / 岡崎茂夫 / 岡田宏子 / 柿崎孝 / 笠原真弓 / 片岡良男 / 勝間典子 / かつまた竜大 / 鎌倉淑子 / 河口朝美 / 河口良平 / 川俣忠紀 / 川村潤 / 菊入京子 / 菊池尚 / 私市由枝 / 木村義忠 / 許進一 / 京極敬之 / 京極美千代 / 熊澤靖子 / 栗崎由子 / 桑原輝子 / 小林春彦 / 斉藤政明 / 佐藤イツ子 / 佐野俊文 / 篠塚文恵 / 白土和子 / 白土謙二 / 園田直美 / 田中徳雄 / 渡慶次道隆 / 冨塚元夫 / 中川新一 / 中村巧 / 中村昭司 / 新納秀朗 / 鳩川静 / 野村修 / 橋本美栄子 / 馬場厚子 / 林康司 / 原文子 / [REDACTED] / 藤代政夫 / 堀川久司 / 堀浜直美 / 榎啓巳子 / 松尾弘道 / 松元道子 / 松本美津江 / 松本洋子 / 水島玄徳 / 三本敦子 / 三好実樹 / 宮崎すみ江 / 森尚志 / 安田健一 / 矢野光雄 / 山本武 / 湯本憲二 / 吉沢弘志 (五十音順、2023.10.4 現在、82 名、匿名 16 名)